

オオトックリゴミムシ *Oodes vicarius* Bates

【選定理由】

強い好水性を持つ種で、ゲンゴロウ類などの水生甲虫類と同じく、水辺環境の減少や悪化によって全国的に生息地、個体数が減少している。愛知県内ではもともと生息情報が多い種ではなかったが、近年、確認されている生息地は尾張旭市内のみとなっているのに加え、新たな生息地の発見は期待が薄いことから、県内の生息基盤は脆弱であると考えられる。

【形態】

体長 12～13.2mm、体は紡錘形でやや扁平で鈍い光沢がある。近似種のエチゴトックリゴミムシとは、下唇中央歯は先が切れ込むこと、前胸背後角部に縁毛（孔点）があること、前胸突起はふつう縁取られないことによって区別できる（中根, 1986；森, 2011）。

【分布の概要】

【県内の分布】

犬山市、小牧市、尾張旭市、豊橋市から記録がある（長谷川ほか, 2015；吉田・戸田, 2016）

【国内の分布】

本州、四国、九州。

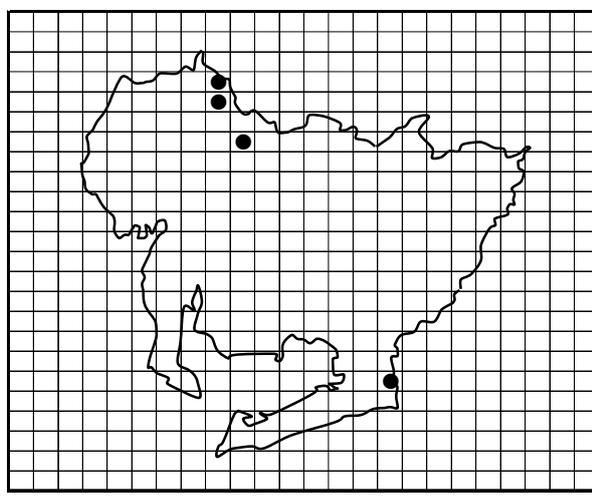
【世界の分布】

日本固有種、国外からは知られていない。

【生息地の環境／生態的特性】

低地から丘陵地にかけての溜池などの水際に生息している。強い好水性があり、時に水中に潜ることもある。成虫態で水辺周辺の土中で越冬する（須田, 1993）。

県内分布図



【現在の生息状況／減少の要因】

県下で近年生息が確認されているのは、尾張旭市のため池のみである。減少の要因としては、圃場整備による水田の乾田化、池、沼の減少と環境の悪化により、生息地が失われたことが考えられる。

【保全上の留意点】

現在の生息地の環境を保全するとともに、新産地の発見に努める。生息地はため池であることが多いことから、ため池の整備工事などの際には本種の生息環境を悪化させないよう留意が必要である。

【特記事項】

隣接する三重県では、絶滅危惧Ⅱ類に指定されている（三重県農林水産部みどり共生推進課, 2015）。

【引用文献】

- 岩崎 博・蟹江 昇, 1990. 愛知県のオサムシ類. 愛知県の昆虫, (上): 309-338. 愛知県.
長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希, 2015. 愛知県のトックリゴミムシ類. 豊橋市自然史博物館研究報告, (25): 21-24.
中根猛彦, 1986. 日本の甲虫(73). 昆虫と自然, 21 (4).
森 正人, 2011. 兵庫県のとックリゴミムシ類. きべりはむし, 34 (1): 9-11.
須田 亨, 1993. トックリゴミムシ類の越冬習性について. 昆虫と自然, 28 (8): 35.
三重県農林水産部みどり共生推進課, 2015. 7 昆虫類. 三重県レッドデータブック 2015 ～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～: 190. 三重県農林水産部みどり共生推進課.
吉田一樹・戸田尚希, 2016. 犬山市入鹿池におけるオオトックリゴミムシの追加記録. 佳香蝶, 68 (265): 11-12.

【関連文献】

- 上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝編, 1985. 原色日本甲虫図鑑(Ⅱ), 514pp. 保育社.
(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)